

秋も深まり各地の紅葉が見頃となっています。

本村では、南北橋上流の紅葉が大正 8 年岐阜日日新聞発行の「東白川発展号」と題する特集で 8 か所の景勝地の一つ「長洲の碧潭(へきたん) ※」として紹介され、今が見頃となっています。

10 月に開催しました集落座談会には多数の皆様にご出席いただき、各会場とも貴重なご意見をいただくことができました。厚く御礼申し上げます。

この度の集落座談会では、平成 31 年度からの 5 年間の福祉計画についてのご意見と、診療所・老人保健施設建設事業の進捗状況について、また来年度予定しています光ファイバー化事業について説明するとともに人口減少のシミュレーションをお示して、これらを共通の課題として認識をお願いしてまいりました。

各会場とも熱心に質問や提言をいただきましたので、今後の村づくりの参考にしてまいりますとともに、要望事項についてはしっかりと確認しご回答してまいりたいと考えております。

今回の座談会は、各会場でのご挨拶で申し上げましたように二期目の村政を進めるにあたり、私の基本スタンスとして村民の皆様をしっかりと受け止めて村政に活かして行きたいとの思いから、直接皆様のご意見を伺う機会として開催させていただきました。

全体を通して、説明不足や情報の出し方に工夫が足らず、必ずしも多くの方々に行政の思いが伝わっていないことがあること、職員の村民目線の意識の徹底がまだまだ足りないと感じておられる方があったということなど反省すべき点多々ありましたので今後とも職員と一緒に汗をかいてまいりたいという強い気持ちに立ち帰ることができた座談会でもありました。

10 月から 11 月にかけては来年度予算関係の要望活動で東京への出張が多くあります。過疎の村から約 4 時間で世界でも有数の過密都市東京へ移動したとき、時折感じることがあります。それは人の数だけでなく情報量や生活のスピードなど比べ物にはならずその差に愕然とします。それと同時に東白川村が日本の中核ともつながっているという変な安心感も覚えます。

先日の美しい村づくり講演会では、雑誌「ソトコト」の編集長である指出一正(さしで かずまさ)氏に「地域の魅力と関係人口」という演題で講演いただきました。70 名程の参加者でしたが、村外からも指出氏のネームバリューで聴講者が来られ、村の魅力について新たな気付きを得るとても良い機会になりました。聴講された方々から「とてもいい話でよかったよ」とお褒めの言葉をいただくことができ嬉しく思っております。指出先生には今後も東白川村の「関係人口」の 1 人となっていただきたいと考えています。

この講演会は、地域の皆様に東白川村の魅力を再認識していただくことや、私たちが住んでいる村にもっと自信を持っていただきたいという願いで開催したもので、今後も毎年開催してまいりますので、機会を逃さず是非とも聴講いただきたいと思っています。

※ 碧潭(へきたん) …青々とした洲という意味

平成 30 年 11 月

東白川村長 今井俊郎